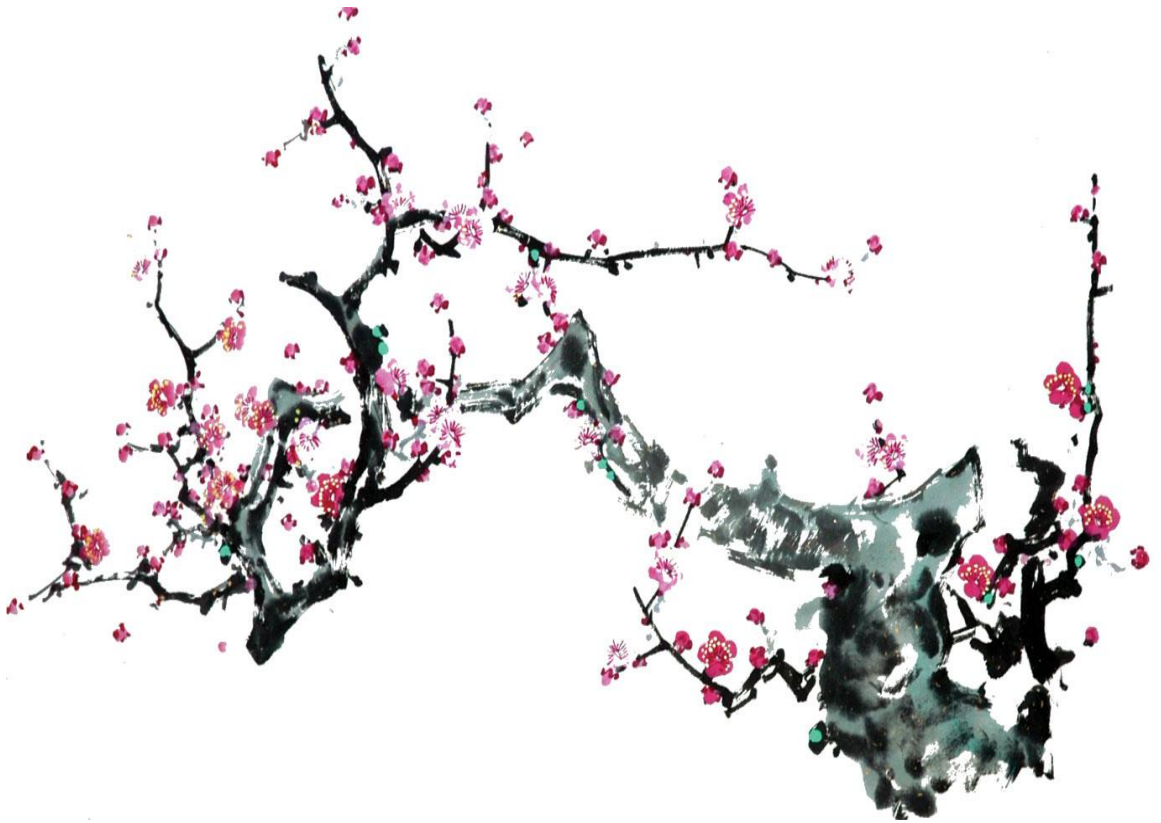


主の年 2023年

日本基督教団 関東教区 埼玉地区

新年合同礼拝



日時 2023年 1月9日(月)
埼玉地区デー 成人の日
10:30 ~ 12:00
会場 日本基督教団 大宮教会

埼玉地区新年合同礼拝

説教者 東野尚志 牧師 (滝野川教会)
司式者 本田 彰 兄 (大宮教会)
奏楽者 佐藤初音 姉 (大宮教会)

《神の招き》

前 奏
招 詞 詩編 1 編 1 節～3 節 司式者
讃 美 歌 2 1 - 3 9 0 主は教会の基となり 一 同

《神のことば (せいしよのおことば)》

祈 禱 司式者
聖 書 コリントの信徒への手紙 一
1 2 章 1 2 節～2 6 節 司式者

讃 美 歌 2 1 - 3 9 3 心をひとつに 一 同

子どもへの説教 「キリストのからだ」 指方周平 牧師

讃 美 歌 2 1 - 3 6 7 偉大な御神の 一同

聖 書 詩編 3 1 編 1 5 節～1 7 節 司式者

説 教 「私の時は御手にあります」 東野尚志 牧師

祈 禱

讃 美 歌 2 1 - 4 6 9 善き力に我囲まれ 一 同

信仰告白 日本基督教団信仰告白 一 同

成人(18歳)式を迎えた方々、受洗・信仰告白をされた方々への祈り

小林 眞 牧師

《神への応答》

献 金 一 同

祈 禱

主の祈り 一 同

頌 栄 讃美歌 2 1 - 2 8 一 同

派遣と祝福 東野尚志 牧師

後 奏

説教者紹介

[東野 尚志 (ひがしの ひさし) 先生]

1961年、京都府綾部市に生まれる。大阪大学人間科学部において、教育哲学を学ぶ。1981年イースター、大阪教会にて受洗。大学卒業と同時に、東京神学大学3年次に編入学。1989年、東京神学大学大学院博士課程修了。日本基督教団横浜指路教会伝道師、副牧師を経て、1993年より2年間、英国留学(合同教会研究)。1995年、帰国して鎌倉雪ノ下教会に着任、1997年より同教会主任牧師。2009年、聖学院教会(当時、緑聖教会)に転任。現在、滝野川教会主任担任教師。

現在、日本基督教団常議員、教師養成制度検討委員。

挨拶

主のご降誕と新年をお祝いいたします。

本日は、主の年2023年の埼玉地区新年合同礼拝にご出席くださり、ともにみ言葉に聴き、讃美と祈りをささげることができますことを感謝いたします。

埼玉地区には58の教会・伝道所があり、年頭に「地区デー」と名づけて、各区での礼拝と地区全体の礼拝とを毎年交互に行っています。偶数年は、地区全体で礼拝をささげる年になります。

今年度、埼玉地区は、「主にある交わりを深めよう」を主題にかかげて、活動を続けています。この礼拝が、主題にかなって主にある交わりを深めるときとなるように、祈りつつ準備を重ねてまいりました。埼玉における宣教への使命を、新たにいたしましょう。

主 催 埼玉地区委員会

連絡・案内

- ★受付は地区委員が、会場については大宮教会と地区委員が担当いたします。不明な点は、受付および会場担当者におたずねください。
- ★「埼玉地区デー献金」は、受付に地区会計担当者(末 永廣牧師・小川教会)がおりますので、お渡してください。
- ★献金、こどもプログラムについて、10時に打ち合わせをします。各教会の奉仕担当者は、1階の集会室に(玄関に入ってすぐ右)集合してください。
- ★礼拝の中で献金を集めた後は、献金奉仕者が1階集会室(打合せをした部屋)で集計して、礼拝後の報告時に献金額を報告します。
- ★礼拝後の報告時に連絡などされたい方は、受付にいる埼玉地区委員長・小林眞牧師(岩槻教会)まで、事前にお申し出ください。

せい しょ
聖 書

[しょう し しへん べん せつ せつ
招 詞] 詩編 1 編 1 節～ 3 節

いかに さいわ かない ことか 神に 逆らう 者の 計らいに 従って 歩まず
つみ ある 者の 道にと どもらず 傲慢な 者と 共に 座らず
しゅ おし あい その おし ひる よる くち さむ ひと
主の 教えを 愛し その 教えを 昼も 夜も 口ず さむ 人。
その 人は 流れの ほとりに 植えられた 木。 ときが 巡り 来れば 実を 結び
は もし おれる ことが ない。 その 人の することは すべて、 繁栄を もたらす。

[せい しょ しのと てがみ しょう せつ せつ
聖 書] コリントの 信徒への 手紙一 1 2 章 1 2 節～ 2 6 節

からだ は 一つでも、 多くの 部分から 成り、 体の すべての 部分の 数は 多く
でも、 体は 一つである ように、 キリストの 場合も 同様である。 13 つま
り、 一つの 霊によって、 わたしたちは、 ユダヤ人であらうと ギリシア人
であらうと、 奴隷であらうと 自由な 身分の 者であらうと、 皆一つの 体と
なるために 洗礼を受け、 皆一つの 霊をの ませてもらった のです。 14 体は、
一つの 部分ではなく、 多くの 部分から 成っています。 15 足が、「わたし
は 手ではないから、 体の 一部ではない」と 言ったところで、 体の 一部
でなくなる でしょうか。 16 耳が、「わたしは 目ではないから、 体の 一部
ではない」と 言ったところで、 体の 一部でなくなる でしょうか。 17 もし 体
ぜんたい が 目だったら、 どこで 聞きますか。 もし ぜんたい が 耳だったら、 どこで
においを かぎますか。 18 そこで 神は、 御自分の 望みの ままに、 体
一つ一つの 部分を 置かれた のです。 19 すべてが 一つの 部分になっ
たら、 どこに 体という ものがある でしょう。 20 だから、 多くの 部分があ
っても、 一つの 体なのです。 21 目が 手に向かっ て「お前は 要らない」と
は 言えず、 また、 頭が 足に向かっ て「お前たちは 要らない」と も 言え

ません。22 それどころか、^{からだ なか}体の中でほかよりも^{よわ み}弱く見える^{ぶぶん}部分が、か
えって^{ひつよう}必要なのです。23 わたしたちは、^{からだ なか}体の中でほかよりも^{かつこう わる}恰好が悪い
と思われ^{おも}る^{ぶぶん おう}部分を覆って、もっと^{かつこう}格好よくしようと^{みぐる}し、^{ぶぶん}見苦しい部分を
もっと^{みぼ}見栄えよくしようと^{みぼ}します。24 見栄えのよい^{ぶぶん}部分には、そうする
必要^{ひつよう}はありません。神は、^{かみ みおと}見劣りのする^{ぶぶん}部分を^{ひ た}いっそう引き立たせて、
^{からだ く た}体を^{からだ ぶんれつ お}組み立てられ^{かくぶぶん}ました。25 それで、^{からだ ぶんれつ お}体に^{かくぶぶん}分裂が起^{かくぶぶん}こらず、各部分^{かくぶぶん}が
^{たが はいりよ あ}互いに^{ぶぶん くる}配慮し合^{ぶぶん}っています。26 一つの^{ぶぶん くる}部分が^{ぶぶん}苦しめば、すべての^{ぶぶん}部分が
^{とも くる}共に^{ぶぶん とうと}苦しめ、一つの^{ぶぶん とうと}部分が^{ぶぶん とも よろこ}尊ばれれば、すべての^{ぶぶん とも よろこ}部分が^{ぶぶん}共に喜ぶので
す。

[^{せい}聖 ^{しょ}書] ^{しへん}詩編 3 ^{べん}1 ^{せつ}編 1 ^{せつ}5 ^{せいしよきょうかいきょうどうやく}節 ~ 1 ^{せつ}7 ^{せいしよきょうかいきょうどうやく}節 (聖書協会共同訳)

- 15 ^{しゆ}しかし、^{しんらい}主よ、私はあなたに^{しんらい}信頼します。
わたし ^い私は言^いいました、「あなたこそ^{かみ}わが神」と。
16 ^{わたし}私の^{とき}時は^{みて}御手にあります。
^{てき て}敵の手^{せま く}から、^{もの}迫り来る者^{もの}から
私^{たす}を^だ助け出^だしてください。
17 ^{しもべ}僕^{うえ}の上に^{みかお}御顔を^{かがや}輝かせ
^{いっく}慈^{わたし}しみに^{すく}よって私^{すく}を救^{すく}ってください。

にほんキリストきょうだんしんこうこくはく
日本基督教団信仰告白 (1954年制定)

^{われ}我らは^{しん}信じ^{こくはく}かつ告白^{こくはく}す。
^{きゆうしんやくせいしよ}旧新約聖書は、^{かみ れいかん}神の^な靈感によりて成り、^{あかし}キリストを^{ふくいん}証し、^{しんり}福音の^{しんり}真理
^{しめ}を示し、^{きょうかい}教会の^よ拠るべき^{ゆいいつ}唯一の^{せいてん}正典なり。されば^{せいしよ}聖書は^{せいれい}聖霊によりて、
^{かみ}神につき、^{すくい}救ひにつき、^{まった}全き^{ちしき}知識を我らに^{われ}与^{あたう}ふる^{かみ}神の^{ことば}言にして、^{しんこう}信仰
と^{せいかつ}生活との^{あやま}誤りなき^{きはん}規範なり。
^{しゆ}主イエス・キリストによりて^{けいじ}啓示せられ、^{せいしよ}聖書において^{あかし}証せらるる

唯一の神は、父・子・聖霊なる、三位一体の神にいましたまふ。御子は我ら罪人の救ひのために人と成り、十字架にかかり、ひとたび己を全き犠牲として神にささげ、我らの贖ひとなりたまへり。

神は恵みをもて我らを選び、ただキリストを信ずる信仰により、我らの罪を赦して義としたまふ。この変らざる恵みのうちに、聖霊は我らを潔めて義の果を結ばしめ、その御業を成就したまふ。

教会は主キリストの体にして、恵みにより召されたる者の集ひなり。教会は公の礼拝を守り、福音を正しく宣べ伝へ、バプテスマと主の晩餐との聖礼典を執り行ひ、愛のわざに励みつつ、主の再び来りたまふを待ち望む。

我らはかく信じ、代々の聖徒と共に、使徒信条を告白す。

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがへり、天に昇り、全能の父なる神の右に坐したまへり、かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん。我は聖霊を信ず、聖なる共同の教会、聖徒の交はり、罪の赦し、身体のよみがへり、永遠の生命を信ず。

アーメン。

主の祈り (93-5 a)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあがめさせたまえ。

み国を来たさせたまえ

みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を 我らがゆるすごとく、

我らの罪をもゆるしたまえ。我らをこころみにあわせず、

悪より救い出したまえ。国とちからと栄えとは

限りなくなんじのものなればなり。アーメン。 (1880年訳)